

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第3期剣淵町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道上川郡剣淵町

3 地域再生計画の区域

北海道上川郡剣淵町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、1955年の9,334人をピークに、減少が続いており、住民基本台帳によると2024年には2,728人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には総人口が1,832人となる見込みである。

また、年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1955年の3,617人から2024年の210人、生産年齢人口（15～64歳）は1955年の5,254人から2024年の1,341人と減少傾向にあり、老年人口（65歳以上）は1955年の463人から2024年の1,177人と増加の一途をたどっており、少子化・高齢化がさらに進み、人口減少のスピードは加速していくと推測される。

自然動態をみると、出生数は2006年の26人をピークに減少し、2024年には7人となっている。その一方で、死亡数は2006年の57人と同水準で2024年には45人となっており、出生数から死亡数を差し引いた自然増減は38人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2006年にはすでに転入者（123人）が転出者（153人）を下回る社会減（30人）であった。さらに、2024年には46人の社会減となり転出超過が続いている。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、転出者の増加（社会減）等が原因と考えられる。

今後も、労働力の低下や社会保障費の増大等、人口減少と少子化・高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、町民の生活に、大きな影響を及ぼすことが懸念される。

これらの課題に対応するため、町民への結婚応援事業・結婚新生活支援・君の椅子プロジェクト等の充実を図り自然増につなげる。また、移住を促進

するための情報発信・相談体制の充実とともに、商工業者やU I J ターン者の就業支援等による安定した雇用を創出し、社会減に歯止めをかける取り組みを行う。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 働く場としての魅力を感じる地域をつくる
- ・基本目標 2 人の流れや活力を感じる地域をつくる
- ・基本目標 3 安全で住みやすい地域をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	農家数（農業法人を除く）	225経営体	215経営体	基本目標 1
ア	農業法人数	10経営体	13経営体	基本目標 1
ア	農畜産物等の新商品開発数	17点	20点	基本目標 1
ア	新規起業件数	1 人	7 人	基本目標 1
ア	「中小企業等U I J ターン者応援事業」の利用件数（5 年間合計）	26 件 (2020～ 2024の合計)	30 件 (2025～ 2029の合計)	基本目標 1
ア	剣淵高校卒業生の町内就業数 (5 年間合計)	6 人 (2020～ 2024の合計)	12 人 (2025～ 2029の合計)	基本目標 1
イ	絵本にちなんだイベントや企画数（5 年間合計）	305 回 (2020～ 2024の合計)	325 回 (2025～ 2029の合計)	基本目標 2
イ	道の駅利用者数	40.3万人	45.0万人	基本目標 2
イ	レークサイド桜岡利用者数	4.6万人	5.0万人	基本目標 2
イ	町外の国や地域との交流件数（5 年間合計）	25 件 (2020～ 2024の合計)	50 件 (2025～ 2029の合計)	基本目標 2
イ	結婚応援者数（5 年間合計）	-	25 人 (2025～ 2029の合計)	基本目標 2
イ	結婚新生活支援者数 (5 年間合計)	4 組 (2020～2024 の合計)	10 組 (2025～2029 の合計)	基本目標 2

イ	移住の問合せや相談の件数 (５年間合計)	50 件 (2020～ 2024の合計)	75 件 (2025～ 2029の合計)	基本目標 2
ウ	子育てに関する満足度 (「満足」「やや満足」の合計)	-	40.0%以上	基本目標 3
ウ	教育に関する満足度 (「満足」「やや満足」の合計)	-	40.0%以上	基本目標 3
ウ	町内に新たに建設された住宅数 (５年間合計) ※個人や民間で建設したものも含む。	29 戸 (2020～ 2024の合計)	30 戸 (2025～ 2029の合計)	基本目標 3

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

5－2 のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第3期剣淵町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 働く場としての魅力を感じる地域をつくる事業

イ 人の流れや活力を感じる地域をつくる事業

ウ 安全で住みやすい地域をつくる事業

② 事業の内容

ア 働く場としての魅力を感じる地域をつくる事業

地域密着の産業である農林産業や商工業等、様々な分野に魅力ある仕事の間を創出する事業

【具体的な事業】

- ・ 農業・後継者の確保、新たに起業をめざす人に向けた事業
- ・ 町内の農業者と高校生が連携・交流する機会の創出
- ・ 農畜産物生産の推進
- ・ U I J ターン者就業支援 等

イ 人の流れや活力を感じる地域をつくる事業

本町への観光・移住促進事業

【具体的な事業】

- ・絵本にちなんだイベントや企画の実施
- ・「絵本の里」を次代つなげる人づくり
- ・道の駅や周辺における高速パーキングエリアの整備、ハイウェイオアシス化、魅力向上の推進
- ・剣淵温泉レークサイド桜岡を拠点とした移住体験・農業体験の推進、滞在・宿泊機能の向上
- ・他の自治体・企業との相互連携
- ・広域連携による「食と観光」の着地型観光の推進
- ・町外への情報発信、プロモーション事業
- ・交流環境づくり
- ・移住・定住情報発信 等

ウ 安全で住みやすい地域をつくる事業

子育て、教育する場として魅力的なまちづくり環境整備事業

【具体的な事業】

- ・子育て支援
- ・幼小中高連携ふるさとづくりの推進
- ・住宅、宅地整備事業
- ・商店街活性化、移動販売等による買い物環境の向上
- ・医療・福祉体制強化と充実
- ・障がい者・高齢者支援環境づくり
- ・「北・北海道中央圏域定住自立圏」事業の推進
- ・DX推進事業 等

※ なお、詳細は第3期絵本の里けんぶちまち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））
4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

25,000千円（2025年度～2029年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町の公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで